
僕らが飛べる日

ふさふさしっぽ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕らが飛べる日

【Nコード】

N9433Y

【作者名】

ふさふさしっぱ

【あらすじ】

主人公砂宮梨華は、ドジも多いが明るくさっぱりした中三の女の子。ある日をきっかけに、不思議な力を持った三人の男子と秘密を共有することになる。たまにバトルありの、ちょっと不思議系の予定です。

夜の学校で（前書き）

連載テスト小説です。いきあたりばったりだったり、へんな箇所で切ったりしちゃうかもです。っていうか主人公がイケメンに囲まれる系の話です^^途中で恋愛したり、バトツたり、シリアスになったりします。

いろいろ「なにこれ」てきなことはあると思いますが、目をつぶってやってください。

夜の学校で

夜の学校は怖い。

部活動に委員会も終わって、職員会議も終了して、校門が閉ざされる。見回りも兼ねた宿直員がいることはいるが、それでもやっぱり怖い。あまりの静けさが、昼の騒々しさと対称的だからだろうか。どこになにが潜んでいるか、分からないからだろうか。

この物語の主人公、砂宮梨華さみやりかは、その怖い怖い夜の学校にいた。お決まりの、宿題の忘れ物を取りに来た、という理由で。12月の夜は寒い。とくに今日は寒い気がする、と梨華は思った。梨華は白い息を吐きながら、静まり返った廊下を進む。

「なんでわたしが数学のプリントのことで、ここまでしなきゃならないの!？」

心の中で梨華は逆切れしていた。梨華は数学が苦手で大っ嫌いだった。だからってべつに、他の科目が特に得意という事もないけれど。

梨華は3年2組の教室で、数学の宿題プリントを無事手にした。もはや心の中は怖い、寒い、やってられないの三重苦状態だった。

そのときなんとなく窓の外に違和感を感じて、梨華は窓の方を見た。向き合った校舎の真っ暗な窓が並ぶ。その中に、なぜかオレンジ色の窓が見えた。

燃えている！

窓から見える向こう側の校舎、ここと同じ3階に位置するある教室が、なんと火をあげて燃えていた。火の手は教室を覆い尽くすほ

どではないが、大きな焚火ほどの炎があがっている！「ウソでしょ！」 梨華はパニックになった。逃げるか、でも放つといたら大変なことになる。そうだ、宿直室にいこう！ 梨華は教室を飛び出した。目の前に影があった。

「！！」

「ぎゃああー！！」

梨華は影にぶつかり、影を下にしたまま倒れこんだ。ちなみに「！！」は、影の方のリアクションで、「ぎゃああー！！」というみっともない叫び声は、梨華のものである。

我にかえった梨華が顔を上げると、そこには見知らぬ男の顔があった。暗くてよく分らないが、まったく覚えがない顔だった。男は黙ったまま、こちらを見ている。

「ふんずけて、ごめんなさい」

梨華は彼を押し倒すような格好ですつころんでいたのだった。あわてて起き上る。男の方も無言で立ち上がった。そして、

「どうかしたの？そんなにあわてて」

初めて言葉を発した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9433y/>

僕らが飛べる日

2011年11月28日02時54分発行